



外国出張報告書

平成 26 年 10 月 08 日

1. 出張国名 ガーナ
2. 出張月 平成 26 年 9 月
3. 出張目的 「アフリカ稲作振興」における雑草の生態と制御に関する試験：B

4. 成果の概要

Zaw 村のイネの作付年数などを異にする F.1 と F.2 圃場において「不耕起・耕起組合せ試験区」における 4 年目の雑草発生相を調べた。

無除草の場合、両圃場ともイネ科雑草が優占した。イネの作付履歴が短く、雑草が定着過程にある F.2 圃場で、不耕起と耕起を交互に実施した場合にイネ科雑草の個体数が増加したが、イネ作付履歴が長くイネ科雑草が定着した F.1 圃場では、連年の不耕起でイネ科雑草が少ない傾向であったものの、耕起の履歴の雑草への影響は判然としなかった。不耕起播種では、両圃場とも耕起播種よりイネの個体数が少なかった。

F.1 圃場での、イネ播種後土壌処理剤と茎葉兼土壌処理剤を用い、2 播種時期とした除草剤試験につき、残存雑草とイネの生育を測定し、効果判定のデータを収集した。

雑草の発生状態を異にする F.1 圃場の土壌で、比重選別法により埋土種子を回収し、動態を調べた。雑草の発生が少ない地点では、スズメノコビエの土中種子数が著しく少なかった。

F.3、F.4 圃場など湿地に生育する雑草・植物種に関する情報を収集した。これまでに作成した雑草・植物データベースが湿地の環境に生育する種もカバーできることを確認し、また、雑草・植物 DB 追補、修正のための画像情報を得た。